

愛育班活動は誰でもできます。  
一緒に活動してみませんか？

愛育班活動は、いつでも、どこでも、誰でも、無理なく  
できる活動です。そして、愛育班員は活動を通じて  
多くのことを学んでいます。

## 愛育班員の声

先日、3世代交流会を開催。参加者の方からの「楽しかったよ」「ありがとう!」の言葉は、私の心を温めてくれました。そんな皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

一人暮らしや老夫婦だけのお宅への「お変わりないですか」という簡単な声かけ訪問にもかかわらず、私の名前を覚えていてくださり、とてもうれしかったです。

班員になりたての頃、なかなか声かけ訪問ができなかったのですが、勇気を出して新米ママのお宅へ。子育てのお話をするうちに不安げなママの顔に笑顔が戻り、自分の活動にも自信がもてました。

活動とおして、自分も地域の中で何らかのカタチで見守られているのだなあと気づきました。余計なお世話と思うかどうかはその人次第。私は、ご近所と仲良く、明るく暮らしながら活動をつづけていこうと思っています。

「愛育班」活動に参加してみたい、話を聞いてみたい、  
と思われた方は、お気軽に下記までお問い合わせください。

天皇陛下のご誕生をきっかけに、  
「恩賜財団母子愛育会」は誕生しました。

現在の天皇陛下ご誕生(昭和8年)を機に、昭和天皇より賜った御下賜金をもとに、当時ほとんど顧みられない状態にあった母子の健康と福祉向上のため「恩賜財団愛育会」が設立されました。その事業のひとつが、乳児死亡率を低下させるために村ぐるみで取り組む愛育村組織の普及であり、愛育班活動の推進でした。



愛育班によるユニセフミルクの配給(昭和31年)



山梨県母子愛育会を支えた人々(昭和48年)

昭和11年より、乳児死亡率が著しく高かった農山漁村から「愛育村」「愛育班」の指定が開始され、昭和19年には全国に及びました。「愛育班」では、地域の婦人たちが中心となり自ら新しい保健知識を身につけるとともに、近隣の妊産婦や乳幼児を見守り、助け、支え、母子の健康づくりに貢献してきました。

そして戦中・戦後の混乱の中でも「愛育の灯」「愛育の心」を絶やさず今日まで活動をつづけています。

恩賜財団母子愛育会「愛育推進部」では、  
全国の「愛育班」を支援するさまざまな活動を行っています。

1. 愛育班員全国大会などの開催  
本会総裁の三笠宮妃百合子殿下のご臨席のもと、毎年「愛育班員全国大会」を開催。功労者の表彰、手記の発表、模範愛育班の指定、特別講演、交流会などを行っています。
2. 愛育班育成指導のため、本会の職員および学識経験者の派遣
3. 愛育班長・育成者(保健師)の研修会開催
4. 情報提供(機関紙「愛育」の発行)
5. 教材開発・提供
6. 愛育班活動に関する調査



第36回愛育班員全国大会(平成16年)

このほかにも「恩賜財団母子愛育会」には、日本子ども家庭総合研究所、愛育病院、幼稚園、保育施設、研修部門などの施設があり、創立の精神にもとづき母子保健・福祉の向上に努めています。



社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 愛育推進部

〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8  
TEL/FAX : 03-3473-8315

ご存じですか?  
愛育班



子どもたちが健やかに生まれ育ち、病気・障害があっても、  
高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしてい  
くことを目的とした住民の組織活動です。

健康づくりは個人の努力と実践が基本ですが、一人ひと  
りで健康を守ることには限界があります。愛育班は、個々  
の様々な健康問題を自分たちの課題として、共に手を  
携え、支えあい活動をしています。

社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会